

2025年7月13日に（株）リロ・フィナンシャル・ソリューションズのRELO みらい Plan Navi 運営事務局が主催するセミナー「原晋氏による人と組織を強くするビジネス・メソッド」にオンラインで参加しました。皆さんは原晋氏をご存じでしょうか？ 原晋氏とは、あの“箱根駅伝”で何度も優勝を飾っている青山学院大学駅伝部の監督さんです。原監督がこれまでの陸上界の常識を打ち破り、新たな手法で日本学生長距離界の発展に寄与していることは大変有名なお話です。お正月にはテレビで必ず箱根駅伝を見る主任部長、「いけるぞ！ さすが山の神！」と大きなメガホン片手に後続車の助手席から身を乗り出して学生ランナーに声掛けをする原



監督を良く知っていました。そんな原監督の講演会にオンライン参加できるなんて。これはチャンス！学ばせて頂かなくては。

お写真は原晋氏公式ホームページより引用

<https://www.hara-susumu.com/>

お話の前半は、弱小校だった青学大をいかにして駅伝強豪校へと成長させたのか、その覚悟と挑戦について詳しくご紹介下さいました。そして後半は、箱根駅伝から学ぶ人材育成術～より良い組織づくりがより良い人材を育てる～についてお話下さいました。それは単に駅伝のチーム作りに留まらない、広く社会の組織作りに当てはまる素晴らしいお話でした。2時間余りの「原晋氏による人と組織を強くするビジネス・メソッド」の講演の中で、特に主任部長が心に残ったお話をご紹介します。

「若手が仕事で失敗を犯したとき、その失敗は責められるべきかそうでないのか。皆さんも判断に迷われると思います。」

確かに…。主任部長も専攻医さんを叱るべきなのか、許す場面なのか、判断に迷うことがあります。原監督は続けます。

「失敗はまず 2 種類に分類されます。組織的な欠陥による失敗、個人の資質による失敗です。組織的な欠陥による失敗なら、今後そんな事が起こらないように組織の仕組みを修正

すれば良いだけの話です。個人の資質による失敗はさらに2種類に分けられます。若手が挑戦して結果的に失敗した場合、それとやるべきことをやらずに失敗した場合は、若手が挑戦して失敗した場合、これは褒められるべきことなのです。決して叱ってはいけません。おまえ、良くチャレンジしたな、次はいけるぞって褒めるんです。しかし、やるべきことをやらずに失敗した場合、これは絶対叱らなければなりません。凡事徹底がなされなければ、どんな成果も期待できないからです。」主任部長、もう眼からうろこです!! 失敗とはこんな奥深いものだったのですね。でも確かにその通りだと思いました。主任部長、これまで思い切って挑戦して失敗した若手を「気にしないで。仕方がないよ。」と慰めることはありましたが、「良くやったね。思い切って挑戦して素晴らしいかったね。」とは言えていなかったです。そして叱る基準は“凡事徹底”の有無。素晴らしい学びを得ました。

Part 2 に続きます！